

# 昔なつかし機関車と亀岡街道をたどる ~菅原・東淡路~



**亀岡街道**  
 大阪高麗橋より高槻を経て亀岡へ通じる主要な道であった亀岡街道は、淀川改修以前の淀川右岸を通り、現在の城東貨物線の鉄橋北詰の東側で堤防を下り、北へ向かっていました。この近くに街道の昔の賑わいを示す道標や古い家並みが今も残っています。

**東淡路町公園**  
 文治元年(1185)創建の西心坊のあったところといわれています。文久3年(1206)ごろ、淀川の洪水により、七堂伽藍から石段まですべてを流失し、あとに大きな池が残り、西心坊池といっていました。埋め立てられ公園となりました。

**菅原天満宮公園**  
 周辺の区画整理の完成の記念して造られた公園で、地域のシンボルとして山陰や中部地方を中心に活躍したDF50形ディーゼル機関車が展示されています。

**菅原天満宮**  
 寛永年間(1624~43)に、この地が開発せられた時に勧請されました。「砂持ち神事」は天保年間(1830~43)に時の代官が堤防崩壊防止令を出し、堤防の盛土を命じた時の名残りとなっています。境内には樹齢約450年のクスノキがあります。

**東淡路商店街**  
 昭和36年(1961)に区内で最初にアーケードが完成した商店街でした。淡路駅前の区画整理により、大きく変貌を遂げました。

**東淡路南公園**  
 長屋であった市営住宅をマンションに建て替えた際に造られた公園で、健康広場や地域のシンボルとして東海道線の貨物列車で活躍したEH10形電気機関車が全国で唯一展示されています。

**赤川鉄橋**  
 吹田操車場と放出間に、貨物専用線として敷設。昭和4年(1929)に単線で開通しました。橋は複線の幅で架けられていて、JRおおさか東線の工事が始まる平成25年(2013)まで歩行者用道路として両岸の連絡道として役立っていました。

**行友家のクスノキ**  
 高さ約22m、幹回り4.4mと現在も大きな樹勢が目立っていますが、人家の少ない昔も遠くからの目印になっていたといわれています。

**一柳家の土堀と道標**  
 一柳家は江戸時代に中島大水道の開削にあたり、その実現に苦勞を重ねた村の庄屋でした。現在残る土堀には当時の瓦が塗り込められており、続く四脚門は民家には珍しいものとなっています。また、天保7年(1836)建立の亀岡街道と瑞光寺への道標があります。

参考文献：「私が選んだ東淀川100選」(市制100周年記念事業東淀川区委員会 編)